

論文テスト 慶應義塾大学 商学部 1/3

<総括>

試験時間 70 分

問題形式は、例年通り数理的推論を含む推論中心の問題である。大問数は、2025 年度と同じ 2 題。出題テーマは、大問Ⅰが言語学習におけるヒトと動物の違い、大問Ⅱが消費期限と賞味期限である。

大問Ⅰでは、ヒトと動物の違いとしてアブダクション推論という人間特有の学ぶ力について説明されている。空欄に語句を補充する設問が含まれているが、文章の内容をきちんと理解できれば難しくはない。論理的な思考で最も適切な語句を選択することが重要である。

大問Ⅱは、消費期限と賞味期限についてである。基準値をどのように定めるかによって安全面では問題ないにもかかわらず、消費期限が短くなってしまうという問題が発生する点を指摘している。消費期限は安全係数をかけて一定の式で計算されるが、その計算などが設問に含まれている。また、設問において指数計算も出題されている。指数計算は 2022 年度にも出題された。

2025 年度の消費者物価指数と為替の問題と比べると経済学的な要素は薄くなったと考えられる。ただ、安全に関する基準の問題は 2021 年度にも出題されている。

計算問題は、課題文の内容に沿って計算方法を理解し、計算ミスがないように丁寧に計算することが求められる。昨年度と難易度は変化ない。慶應義塾大学商学部の難易度は、年度ごとに大きく異なるので、大学が発表している受験者の平均点などを参考に、年度ごとの難易度を判断してほしい。

計算問題や数理的思考を問う問題をはじめ、暗号など様々なテーマの問題が出題される慶應義塾大学商学部の論文テストであるが、数理的推論という問題形式と学部系統的な出題テーマという傾向は今後も大きくは変わらないと考えられる。

<課題文の分析>

大問番号	I～II
内 容 (主題)	I ヒトと動物を分かちもの II 消費期限と賞味期限
出 典 (作者)	I 今井むつみ／秋田喜美『言語の本質：ことばはどう生まれ、進化したか』、中央公論新社、2023 年 II 村上道夫／永井孝志／小野恭子／岸本充生『基準値のからくり 安全はこうして数字になった』、講談社、2014 年
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・ 変化なし ・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

論文テスト

慶應義塾大学 商学部 2/3

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答 字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
I	課題文	学部系統的	1	その他 (空欄補充)		課題文の空欄に入る適切な語を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(1)(2)～(11)(12)解答欄にマークする。
			2	その他 (空欄補充)		課題文の空欄(A)～(D)に入る適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(13)～(16)解答欄にマークする。
			3	その他 (空欄補充)	計10字	課題文の空欄(ア)～(エ)に当てはまる最も適切な語句を本文中からそれぞれ抜き出し、解答用紙の所定の欄に記入する。
			4	その他 (推論)	20字以内	課題文の下線部(a)について、なぜ論理的にまったく正しいと言えるのか、設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。
			5	その他 (推論)	30字以内	課題文の下線部(b)について、筆者たちは仮説1と仮説2のどちらが正しいかを結論づけるために、なぜ生後8か月のヒト乳児を実験の対象にしたのか、設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。
II	課題文	学部系統的	1	その他 (空欄補充)		図中の(A)と(B)に当てはまる最も適切な語の組み合わせを選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(17)解答欄にマークする。
			2	その他 (数値計算)		設問文中の空欄に当てはまる適切な数字をマークシート解答用紙(18)(19)～(22)(23)解答欄にマークする。
			3	その他 (数値計算)		課題文中の空欄に当てはまる適切な数字をマークシート解答用紙(24)(25)～(28)(29)解答欄にマークする。
			4	その他 (推論)	30字以内	課題文中の下線部(a)について、筆者がどのような問題があると指摘しているか、設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。
			5	その他 (推論)	25字以内	課題文の下線部(b)について、生野菜サラダが賞味期限のような消費期限と述べられている理由は何か、設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。

※出題形式は「テーマ・課題文（英文を含む場合は付記する）・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

論文テスト 慶應義塾大学 商学部 3/3

<答案作成上のポイント・学習対策等>

大問Ⅰは、ヒトと動物を分かつ言語機能をあつかった問題である。問1、問2、問3、は空欄補充問題である。問1は選択肢が多いので、正しい選択肢を見落とさないように注意が必要である。問3は適切な語句を課題文中から抜き出して答える。きちんと文章を読めばできる問題である。問4、問5は推論問題であるが、これも課題文を正しく読解すれば難しい問題ではない。

大問Ⅱは、消費期限と賞味期限の問題である。食品によって消費期限と賞味期限のふたつの基準があり、どの基準を使うかで廃棄される食品の量が増えるなどの問題がある。計算問題は指数計算が出題されているので指数計算程度までは計算のやり方を学んでおく必要がある。学習対策としては、経済学に関する基本的な知識を身につけることと、計算力を磨くことである。過去問を中心にしっかりと備える必要がある。また、過去の出題を踏まえるとアルゴリズムや論理などの学習も必要となる。河合塾の授業や講習を受講していればこのような特殊な形式の問題にも十分に対応できるだろう。